

市民説明会報告書

令和5年8月10日

会議の名称	志木市交通政策に関する基本方針（素案）の説明会
開催日時	令和5年8月10日（木）10時00分～11時30分
開催場所	第二福祉センター 1階多目的室1
出席職員	<p>政策推進課 課長 松田 淳 政策推進課 主席主幹 渋谷 聡 政策推進課 主席主幹 中森 福夫 政策推進課 主査 小高 拓実 都市整備部参事兼都市計画課長 滝田 和浩 都市計画課 副課長 園原 紘佑 都市計画課 主査 福永 道加 福祉部参事兼共生社会推進課長 的場 裕行 共生社会推進課 副課長 黒澤 多恵 共生社会推進課 主幹 柳下 豊 共生社会推進課 主事 櫻井 諒太郎 長寿応援課 課長 渋谷 幹彦</p>
参加市民	20名
概要	<p>○開会 ○共生社会推進課 的場課長よりあいさつ ○出席職員紹介 ○政策推進課 松田課長より交通政策に関する基本方針（素案）について説明したのち、質疑応答を行った。</p> <p>【質疑】 【質疑－1】 ふれあい号の廃止は決定事項なのか。 【回答－1】 市としては廃止の方向で考えており、最終的には意見公募手続の結果を考慮して決定する。</p> <p>【質疑－2】 第二福祉センターまで、自転車や徒歩で来所可能な近所の方はいいが、遠方の交通弱者の方だとバスがないと行くことができない</p>

い。交通手段のない高齢者は特に行動がとれなくなる。

最初からふれあい号廃止という判断なのか。便数を減らしてでも運行を継続できないか。

【回答－２】

最初から、ふれあい号廃止ありきという判断ではない。一番利用されていた頃と比べても、利用者数が相当落ち込んでおり、さまざまな検証を行ったうえで廃止という方向性を示すことになった。

便数を減らしてふれあい号を継続した場合でも、バスの車両と運転手は一日確保する必要があり、運行経費の節減にはつながらない。

また、コミュニティバスのように利用者から料金を徴収して運行継続できないかということも検討したが、志木市の場合、民間のバス会社と路線が競合してしまうため、減便や撤退につながりかねないことから困難であるという結論となった。

【質疑－３】

障がいのある方の交通手段には配慮していることがわかったが、障がいのある方だけでなく、第二福祉センターなどを利用する高齢者にも配慮していただきたい。朝霞市や新座市はコミュニティバスが出ている。再度とはなるが、便数を減らしてでもふれあい号は継続してほしい。

【回答－３】

ふれあい号については、乗客が減少しているということもあり、廃止という方向で見直しを図っていきたいと考えている。

遠方から来所する方に対しては、長い距離を移動する際の負担を軽減するため、デマンド交通の料金形態を、より利用しやすいものへ見直すことで、利便性を高めていきたいと考えている。

【質疑－４】

デマンド交通は利用したことがあるが、少しの距離でも１，０００円以上の料金となってしまったことがあり、それ以降は利用していない。

デマンド交通の料金形態の見直しをしても、片道３００円から５００円程度払って移動しなければならなくなってしまう。今まではふれあい号が無料でありがたかった。第二福祉センターに行

くにも、片道300円、500円を払うということになると、かなり厳しい状況であり、行動が制限されてしまう。

【回答－4】

デマンド交通の料金設定に課題があるということは、認識しており、デマンド交通の料金形態については、一番高い1,000円の区分について、もう少し使いやすい形にできないか検討を進めているところである。

また、福祉施策として、高齢者の運転免許返納者への補助金の創設なども考えている。

【質疑－5】

コミュニティバスの導入は、民業圧迫の観点から難しいということは理解したが、新座市などでは実際に運行している。第二福祉センターを利用している、自転車や徒歩で来られない距離に住んでいる高齢者が、一番困る状況になることを理解してほしい。

第二福祉センターが、柏町の路線バスもない場所にあるということが、一番の問題。市民会館跡地に複合施設を建て替える（設計する）際に、なぜ高層建築物にして第二福祉センターのお風呂が入る複合施設にしなかったのか。市民会館跡地は、駅からバスも出ており、バス停からの距離も近いため便利。柏町に住む高齢者への影響が一番大きい。国際興業株のバスである志04系統の路線も廃止になるとのことで、柏町の住民が一番大変。デマンド交通も高額で気軽には利用できない。

決まったことに関しては仕方がないが、志木市は子育てには優しいが、高齢者には厳しい。高齢者にもっと優しいまちになってほしい。

【回答－5】

コミュニティバスを導入している自治体では、民間のバス路線が走っていないところを走行している。志木市の場合、どのルートを設定しても、民間事業者のバス路線と競合してしまうため、民業圧迫となってしまう困難である。特に既存の民間バス路線である宗岡循環などは利用者も多く、既存路線から民間事業者が撤退するような事態は、避けなければならないと考えている。なお、ふれあい号は福祉バスであり、福祉施設の送迎を行うため、コミュニティバスとは運行形態が異なる。

また、新複合施設については、高さ制限があり、市民会館・市

民体育館の複合施設であるため、それ以外の施設を計画する余地がなかった。

【質疑－６】

第二福祉センターだけでなく、幸町地区も駅まで遠く、バス路線がないため、すごく不便。健康増進センターへ行くのも赤ちゃんを抱えた親は、すごく大変だと思う。

【回答－６】

幸町地区もあわせて、バス路線が不通の地域への新規路線の運行の検討については、民間事業者へ引き続き要望していく。

【質疑－７】

どうしてもふれあい号は廃止となるのか。１００円でも２００円でも取って継続できないか。柏町は交通の便が悪い。若い人は歩けるが、高齢になると、歩いて家に帰れというのは難しくなってくる。

【回答－７】

ふれあい号をコミュニティバスとして運行することは、民間のバス会社と路線が競合してしまうので困難である。高齢者など、歩行が困難な方が病院に行く場合には、自宅から目的地までドア to ドアで行けるデマンド交通の利便性が高いため、長い距離でも利用しやすい料金形態とするなどの見直しを図っていきたい。

【質疑－８】

デマンド交通は、予約をしても混んでいてすぐに来てくれないこともある。予定より早めに電話してもなかなか配車ができない。費用面だけでなく、もう少し予約と配車状況を改善した方がよいと考える。

【回答－８】

雨の日や朝の通院時間帯については、利用が集中するため配車の待ち時間が長くなり、タクシー会社に電話しても、なかなかタクシーが来ないことがあるのは、市でも把握をしている。昨今では、アプリでも配車予約できるため、アプリと電話で車の取り合いになっている状況であるとのことだが、タクシー会社に対してはデマンド交通の利便が低下しないようお願いしているところである。

【質疑－ 9】

ふれあい号に実際に乗って調査したという話だが、いつの時点でどのくらいの期間、職員がふれあい号に乗り検証を行ったのか。コロナ禍での調査であり、皆が外出を控えてたことから利用者数が少ないのは当たり前ではないか。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した現在は、高齢者も外出する人も増えており、本日の説明会でも「なくさないでほしい」、「今後も利用したい」と思っている人がたくさんいる。新型コロナが5類になった今、乗降者数を調査し直すべきではないか。

【回答－ 9】

令和3年10月に6日間調査を行った。調査の実施時期については、公共施設が閉鎖している時期を避け、開所時に調査をしている。

また、ふれあい号の利用者の減少は、コロナ禍前より課題となっており、見直しを検討してきたところである。令和3年度の調査では、ふれあい号の乗客数だけでなく、代替手段の参考とするため、どのような用途で利用しているのかも含めて調査を行ったものであり、コロナ禍で利用者数が減ったから廃止を検討したのではない。

○司会より意見公募手続の案内をした。

○閉会